名古屋西南ロータリークラブ
Weekly Report

安江英雄会長年度テーマ
継続は力、 協力は強力

例会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000
例会日時 木曜日 12:30
クラブ会報広報委員長 二俣景一

2006-07 年度 R.I.会長
ウィリアム B. ボイド

承 認 1995.3.28
会 長 安江英雄
幹 事 後藤 敞

事務局 名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
Email seinan1@fancy.ocn.ne.jp
HP http://rc.nagoya-seinan.org/

第543回例会	No. 4 平成18年 7月27日(木) 雨
■ ロータリーソング	「奉仕の理想」
■ 出席報告	会員48名中38名出席
■ 出席率	84.44% 出席計算人数45名
■ 修正出席率	7月13日 95.56%

会長挨拶　安江 英雄

「土用について」

7 月 23 日(日)は土用丑の日でした。「土用」は年に 4 回あります。
冬の土用 1 月 17 日～2 月立春まで
春の土用 4 月 17 日～5 月立夏まで
夏の土用 7 月 20 日～8 月立秋まで
秋の土用 10 月 20 日～n 月立冬まで
各々 18 日～19 日間
さて土用丑の日ですが、この日になぜ鰻を食べるのか？これは古代からの信仰と関係があるようです。昔から体調を崩しやすいとされ、なかでも「丑の日」はいちばんの危険日とされた、とくに夏は猛暑とも重なる。夏の土用の丑の日の切り抜け方が昔の日本人の大きな関心事でした。そこでクローズアップされたのが黒い食べ物で、黒い色は魔の侵入を防ぐという信仰があり(葬式に黒い衣を着ける)鰻、ドジョウ、なすなどを食べるという習慣が起こりました。
現在の夏の土用の丑の日といえば鰻と決まっているが、これは江戸時代中ごろの奇才、平賀源内との関係で語られることが多い。
「ある夏の日、源内が鰻屋に立ち寄った。鰻屋のオヤジがシュンとしているので訳を尋ねると「客が少ない」となげく。しばらく考えた源内“そうだ、土用の丑の日が近い”そこで「土用の丑の日は鰻」というチラシを作ったところ大当たり。以後、土用の丑の日に鰻を食べる習慣が定着した。
土用の丑の日に鰻を食べる習慣はすでにあったのだからこのエピソードが事実か否かは疑問が残る。ただいかにも風狂の源内らしいエピソードである。今年の土用の丑の日は 7 月 23 日、暦の上では「大暑」にあたる。そこで今からでも遅くない、鰻を食べよう。

「中日新聞文化欄から」

ニコBOX

●本日の会員卓話 坂野節子さん、藤野正敏さん よろしくお願いします。
安江会長、後藤幹事、日下、水野、西垣、服部、二俣、和田、長谷川千廣、石井、植木、吉田、西川、渡邉、鈴原、池井戸、大林、加藤、近藤、林、森(敬称略)

●先週の「夏の家族会＝コロッケ納涼公演＝」大変楽しかったですね。大勢のご参加、有難うございました。
松尾、中川(敬称略)

藤野さん コロッケ・リフレッシュ例会に参加頂きありがとうございます。今日は卓話ですが、宜しくお願いします。

大平さん たびたび例会欠席し、失礼しました。長雨も上がり夏らしくなって参りました。体に気をつけて頑張りましょう。

北折さん 8月は入院その他で休ませていただきます。皆様も暑い時です、お体に注意して下さい。

ニコBOX委員会 中川委員長、浮貝副委員長
初めてのニコBOXを務めます。宜しくお願い致します。

◎100%出席達成	坂野さん
◎RIM 欠席	坂野さん
本日合計 60,000円	

幹事報告

1. 次週例会前に「理事役員会」がございますので、該当の方はご出席お願い致します。

卓 話

「兄の思い出」

坂野節子

「私の事業紹介」

藤野正敏

卓話と言いましても話す話題が乏しく、非常に困ってしまいましたが、どんな生業をしているか、私共は電力設備の保守点検を主とした仕事ですが、その中で如何に安全が大切かを、私自身の戒めとしてお話しさせて頂きます。

変電所内の制御関係の仕事ですが、どのような事故か（短絡、地絡）を判断して其の線路の電気を停止する保護継電器のテストです。事故でもないのに電気を停止（停電）させれば大きなペナルティを頂くわけです。ここで保護継電器って何ですかと疑問に思われるかもしれません。これは皆さんの家庭に付いているノーヒューズブレイカー（NFB ）と同じで、非常に高精度に出来ているものです。この NFB は沢山電気を使った場合、もう一つは何か金属製のものがコンセントに偶発的に入った場合かあるいは電気器具のコードが何かの力で押し潰されていて短絡状態に成っている、それから一方の線がアースした時も同様に NFB が自動に作動して電気を止めます。それによって安全を保っているわけです。このNFB が保護継電器と思って頂ければよいかと思います。

ここで戒めの事故ですが、監督者と作業者2 名で或る測定器を取り付ける簡単な作業です。継電器盤の前に測定器を取り付けるんですが、1 名が付属品の無いのに気付き、監督者に連絡をしてその場を離れました。監督者は付属品が無くても出来る作業に着手しました。リード線を一方に持ち、もう一方を電源側に付け OPEN してはいけないレバーを外し、感電に至った訳です。幸いに生命には別状無く手･肩と通院を入れて約一ヶ月掛かり完治しましたが、ここで戒めです。どんなに忙しくても一人で作業しては駄目、必ず監視人を置く。人の命を考えればたやすいことと思います。車のバックもそうですね。まだまだ挙げればきりがありません。そして他に、もっと恐ろしいことがありますが時間の都合上この辺りで留め置きます。

第542回例会　No. 3　平成18年　7月20日（木）　雨	
夏のリフレッシュ家族会＝コロッケ納涼公演＝	
■　ﾛｰﾀﾘｰｿﾝｸﾞ	「奉仕の理想」
■　出席報告	会員48名中26名出席
■　出席率	57.78％　出席計算人数45名
■　修正出席率	7月6日　95．65％
■　ゲスト42名	米山奨学生　呉　燕さん 会員ご家族他41名
■　ビジター44名	津RC　岩鶴密雄さん他

会長挨拶　　安江　英雄

「コロッケさんのこと」

本日は「夏の家族会」、大変たくさんのご家族の方に参加していただき心より感謝申し上げます。さて、本日の公演座長のコロッケさんについてご紹介致します。

熊本市出身の九州男児、高校を卒業して上京。ショーパブで形態模写をしていたこともある。「コロッケ」の名称はその時期につけられたとか。顔の表情がコロコロ変わるところに由来するとかいろいろの説があるそうです。

レパートリーは百人以上というが、コロッケの物まねを見ていると歌舞伎役者の顔の表情、大胆に描いた浮世絵師、写楽の錦絵を思わせるところがある。アイデアの面白さは抜群、何回見ても面白くて笑ってしまうのは「芸」として確立されていたからだろうし、そこに強みがあるのではないか。美川憲一さんはコロッケさんの物まねで再起出来たと言う話もあるそうです。

「やりたいことは数限りなくあるんです。物まねは死ぬまでやり続けるでしょうが、他の人と違うコロッケ流の芸を見せて、絶対にコロッケには追いつけないと思わせないと…。一生負けるわけにはいけない。」との本人談、また「物まねは一生やります。もう一つは、喜劇役者としてのコロッケを 50 才までに確立したい（現在 46 才）。極端な話を言えば、物まねがなくてもいいよって言われるようなお芝居を作りたいとさえ思っています。」ともおっしゃっています。　　（プログラムプロフィールより抜粋）

☆☆次回例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

8月17日（木）　第545例会　（8月10日は休会）

「会員卓話」　長谷川龍伸さん予定

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆